

11/09/27

## 豊洲汚染地の液状化問題に関するコメント

日本環境学会土壌汚染問題 WG 長 坂巻 幸雄

都も、都が委嘱した「専門家」も、「科学的」な安全神話を創作して、それに固執している

\* 有楽町層最上部には、不透水層が連続しているので、それより下位には汚染が及んでいない。

\* 今回の地震での液状化(当初はこれも否定)は小規模で、流動方向は上下のみで横方向には及んでいない。

\* 従って、汚染物質の移動や拡散はない。

なぜ敢えて「神話」というのか。

\* 経験則を一応踏まえた形を取ってはいるものの、頭の中で考えている「作業仮説」にすぎず、現場のデータで検証しようとしていない。(～と考えられる)

なぜ、「神話」に固執するのか。

\* 実証して、万一「作業仮説」に反するような事実が出てきたら、豊洲への移転計画そのものが破綻しかねない。

\* だから、「調べない・調べさせない・説明～議論しない。」が鉄則となる。(質問書未回答・パブリックコメント未回答、など)

\* 今回の被災以前にも、すでに神話崩壊の兆候は出てきていることへの危機意識。

盛土層と有楽町層の境界判定が恣意的。有楽町層本体の汚染の可能性(コア裁判関連)

データの再現性が非常に悪い(10年春のデータ墨塗り事件が象徴的)

将来の大地震の時に今回程度の被災で済む保障は全くない(全面流動化・側方流動)

液状化対策工事に一定の有効性はあるものの、汚染物質の移動抑制効果は未知数。

実際に被災してみないと効果の判定ができない。(神戸の事例報告は成功例中心!)

提言 - 「神話」でなく、データで語ろう!

\* 対策工事の当面中止(入札時点で応札者から疑問が出ているが、「詳細は落札者に指示」と逃げているものが多い 追加工事・仕様変更による工費高騰の懸念)

\* 汚染分布に液状化の影響が出たかどうかの検証(公開再調査)

\* 成果の公表と、公開討論に基づく方針策定

< 以上 >